

教えて！！漢方&鍼灸「漢方薬って長くのまないと効かない？ いいえ、そんなことはありません！」

附属東洋医学研究所
助教 河尻澄宏

教えて！！漢方&鍼灸



～漢方薬って長くのまないと効かない？いいえ、そんなことはありません！～

漢方薬は長く続けないと効かないと思っていませんか？確かにそのような側面もありますが、漢方薬の本質とは言えません。



漢方は古代中国に源を発する医学体系で、日本では特に江戸時代に独自の発展をとげたものをいいます。三大古典といわれる『傷寒論』は急性熱性疾患に対する薬物治療について解説されていますが、そのほとんどが数日以内での速やかな効果について言及されています。その他、多くの古医書がありますが、長く服用しなければ効かないという記載は少ないです。むしろ、漫然と長く服用することによる副作用が近年相次いで報告されており、代表的なものでは生薬の山梔子（さんしし）を数年服用した場合の腸間膜静脈硬化症などがあります。江戸時代以前に漢方薬を長期服用することはほとんどなかったと考えられ、このような長期服用による副作用は現代になって長く服用しないと効かないとの誤解から生じた弊害とも言えます。昭和の漢方の名医と

される大塚敬節先生は、3週間で効果がなければ合っていないと判断し他剤への変更を検討すべきと著書の中で言及されています。元来、採血や画像検査などのない時代に発展した漢方治療では自覚症状や舌診や腹診などの診察所見が重要となるので、季節や加齢などの影響による症状の変化に応じて処方を変更したり、また、症状の改善に伴い処方量を漸減します。



もちろん、多くの方が想定している"長く同じ漢方薬を服用して体質改善を図る"こともあります。特に補剤といって体の不足部分を補う意味合いの強い薬は数カ月から年単位と長期にわたり服用することで、体質改善が得られることもあります。

本学附属東洋医学研究所は、患者さんの目的に沿って診療をすすめていきますが、上述の観点から多くは月1回の外来フォローを原則としています。中には2週間に1回来院され、その都度、体調に合わせて薬の調整をする患者さんもおられます。漢方は色々な側面がありますが、本領を発揮するには同じ漢方薬を長期に服用しなければならないとの先入観を持たないことが大切でしょう。

